

奥州市立病院・診療所改革プラン【改訂版】点検・評価報告
(平成 29 年度実績)

1	医療局全体にかかる点検・評価	P1
2	総合水沢病院にかかる点検・評価	P3
3	まごころ病院にかかる点検・評価	P5
4	前沢診療所にかかる点検・評価	P7
5	衣川診療所にかかる点検・評価	P9
6	衣川歯科診療所にかかる点検・評価	P11

平成 30 年 11 月

奥州市医療局

平成29年度 奥州市立病院・診療所改革プラン点検・評価調書

施設名	医療局全体
-----	-------

I 運営にかかる評価

プラン		取組状況と内部評価	運営評価委員会における評価
大項目	中項目		
再編・ネットワーク化 (プランP19～20)	市立病院及び市立診療所の再編・ネットワーク化	高齢社会の進行による地域包括ケアシステムの構築に対応するため、市立2病院に地域包括ケア病棟(床)を導入するための検討を進めた。(まごころ病院は平成30年度に導入予定、水沢病院は検討中)	●地域包括ケア病棟(床)の検討を始めたことを評価するが、胆江地域における2病院・診療所の在り方について、役割分担、連携体制、求められる規模、機能など、地域の関係機関・団体との間で、より具体的な検討、調整が必要と思われる。
	新市立病院の建設にかかる検討	新市立病院建設事業について、平成29年1月に設置した新市立病院建設準備室において、コンサルタント業者や有識者等による協議・検討を行いながら、新市立病院建設基本構想・基本計画の策定を進めた。	●胆江医療圏の医療計画の策定について、市医療局が中心的な役割を担っていたきたい。
経営の効率化 (プランP21)	安定的な医師及び医療スタッフの確保	医師は、総合水沢病院が1名減、まごころ病院が1名増となったほか、平成29年度末に退職を予定していた衣川歯科診療所の所長については、対応により休診期間を設けることなく新たな所長へ引き継ぐことが出来た。 また、近年、採用試験の受験者数が減少傾向にあった看護師について、試験の日程や内容等の見直しを講じたことで、例年を超える新規採用職員の確保が出来た。	●看護師の採用について見直しを行い、新規採用職員の増加につながった点を評価します。 ●医師確保について引き続き取り組み、また、確保につながる新たな取り組み等について検討していただきたい。
	効率的な業務運営体制の整備	職員の各施設間での人事異動を進めながらスキルアップを図った。 また、公立病院の事務職員は、市の人事ローテーションで配属となるが、医療経営の専門性の高まりから専門的人材が必要であるため、病院事務職員の採用試験を実施した。多数の応募はあったが、求める要件を満たす人材がおらず採用は見送りとし、翌年度に要件等を見直したうえで改めて募集を行う。	●職員の資質向上のために取り組んでいる点を評価します。 ●高齢化が進む職員の適正配置や早期退職等によるスリム化が必要と思われます。
	経費の節減	各施設の契約事務を可能なものから本部である経営管理部へ集約しているほか、薬品の共同購入を継続するなど、効率的な運営と適正な執行に努めた。 また、薬品購入単価にかかる、全国の自治体病院の中での位置付け分析(ベンチマーク分析)を取り入れ、当医療局の薬品購入価格及び値引率等の適正化に向けた対応を進めた。	●集約化やベンチマーク分析の導入など、経費の節減に取り組んでいる点を評価します。

Ⅱ 収支計画にかかる評価

1 収益的収支

単位:百万円

区分	年度	29年度			
		プラン	実績	増減	増減率
経常収益 (A)		5,258	5,150	-108	-2%
医療収益		4,163	3,739	-424	-10%
入院収益		2,207	1,931	-276	-13%
外来収益		1,589	1,432	-157	-10%
その他医療収益		368	376	8	2%
医療外収益		1,095	1,366	271	25%
訪問看護事業収益		0	45	45	皆増
特別利益 (B)		1	1	0	0%
経常費用 (C)		5,421	5,256	-165	-3%
医療費用		5,221	5,021	-200	-4%
給与費		3,108	3,015	-93	-3%
材料費		751	740	-11	-1%
経費		1,033	947	-86	-8%
減価償却費		293	293	0	0%
その他医療費用		36	26	-10	-28%
医療外費用		200	173	-27	-14%
訪問看護事業費用		0	62	62	皆増
特別損失 (D)		4	3	-1	-25%
経常損益 (A-C)		-163	-106	57	35%
純損益 (A+B)-(C+D)		-166	-108	58	35%

2 資本的収支

単位:百万円

資本的収入	141	152	11	8%
企業債	3	3	0	0%
出資金	136	146	10	7%
国庫補助金	2	4	2	100%
その他	0	0	0	-
資本的支出	235	243	8	3%
建設改良費	79	92	13	16%
企業債償還金	156	150	-6	-4%
その他	0	0	0	-

3 一般会計繰出金(再掲)

単位:百万円

収益的収支	1,205	1,459	254	21%
資本的収支	136	146	10	7%
合 計	1,341	1,605	264	20%

取組状況と内部評価	運営評価委員会における評価
改革プランの収支計画と比較し、医療費用は低く抑えられているが(-200百万円)、それ以上に医療収益の確保が厳しい状況となっている(-424百万円)。 また、一般会計からの繰入金は、国の繰入金基準項目の見直しがあり、改革プランの収支計画と比較して264百万円の増加となった。 これらにより、純損益は改革プランと比較し58百万円の増となった。	●平成27年度から入院患者数、病床利用率、収益が低下傾向にあるので、対策について検討していただきたい。

平成29年度 奥州市立病院・診療所改革プラン点検・評価調査

施設名	総合水沢病院
-----	--------

I 数値目標にかかる評価

	平成29年度 目標(A)	平成29年度 実績(B)	増減比較 (B/A)	達成度	取組状況と内部評価
医師数(人)	19	19	100%	↑	常勤医師は1名(内科)の採用、2名(小児科、内科)の退職があり、全体で1名減の19名体制での診療となった。
入院患者数(人)	47,997	45,071	94%	→	
外来患者数(人)	87,480	83,219	95%	→	
平均在院日数(日)	14.0	12.9	92%	↑	収入増加対策としては、病院の主な収入である診療報酬において、「認知症ケア加算2、医師事務作業補助体制加算75対1及び後発医薬品使用体制加算3など」の新たな施設基準を取得したほか、既取得の施設基準についても、医師や医療スタッフが院外研修会に積極的に参加し、継続的に適正な医療の提供が出来るよう診療体制の維持・強化に努めた。
紹介率(%)	36.0	36.5	101%	↑	
救急車搬送患者数(人)	865	904	105%	↑	
訪問診療件数(件)	396	602	152%	↑	また、医療提供機能の維持、強化を図るため、血液凝固自動分析装置、生物顕微鏡及びホルタ心電図解析ソフト等の医療機器の更新を図ると共に、入院患者の療養環境の改善として、使用済みオムツパッキング及び感染症対策設備機器を導入したほか、給食用エレベータの改修工事等を行った。
訪問看護件数(件)	1,212	2,818	233%	↑	
入院診療単価(円)	36,084	35,768	99%	→	
外来診療単価(円)	9,300	9,559	103%	↑	費用削減策としては、早期退職勧奨など職員数の適正化に努めると共に、奥州市立の病院、診療所で使用する薬品の共同購入も継続して実施した。
病床利用率(%)	90.7	85.2	94%	→	
医業収支比率(%)	83.6	80.9	97%	→	
経常収支比率(%)	98.0	102.3	104%	↑	
職員給与対医業収支比率(%)	70.2	67.7	96%	↑	
材料費対医業収支比率(%)	18.5	20.5	111%	↓	

【達成度1】※平均在院日数、職員給与対医業収支比率及び材料費対医業収支比率以外の数値目標にかかる達成度

↑	目標値と実績値を比較し、その達成率が100%以上の場合
→	目標値と実績値を比較し、その達成率が90%以上で100%未満の場合
↓	目標値と実績値を比較し、その達成率が90%未満の場合

【達成度2】※平均在院日数、職員給与対医業収支比率及び材料費対医業収支比率にかかる達成度

↑	目標値と実績値を比較し、その達成率が100%以下の場合
→	目標値と実績値を比較し、その達成率が100%を超え110%未満の場合
↓	目標値と実績値を比較し、その達成率が110%以上の場合

II 運営にかかる評価

プラン	取組状況と内部評価
地域医療構想を踏まえた役割の明確化 (プランP16～18)	中核病院である県立胆沢病院及び地域の開業医等との患者紹介・受入れを行い、プラン目標(36.0%)を上回る紹介率(36.5%)となったほか、地域の救急医療体制を維持するため、救急車搬送患者を断らない取組を引き続き実施した。 また、地域包括ケアシステムの構築に適切に対応するため訪問診療・看護の拡大に取り組み、プラン目標を超える実施件数となった。(プラン目標比:訪問診療152%、訪問看護233%) なお、当院の役割から、県等の主催による感染症及び災害医療等の訓練、会議等に積極的に協力した。
再編・ネットワーク化 (プランP19～20)	市立医療施設の診療体制の安定化を図るため、前沢診療所への医師の診療応援をはじめ、各市立医療施設への医療スタッフの応援対応を行った。
経営の効率化 (プランP21)	前年度比1名減の19名の常勤医師体制となったことも起因して、病床利用率は85.2%と前年度(87.9%)を下回る状況となったことから、引き続き医師確保に努めるとともに、医師の定着に向けた取組を進める。 また、患者から選ばれる病院となるための情報発信を充実する取組として、医師(循環器内科、外科)による出張医療講座を開催したほか、患者等への接遇改善やコミュニケーション能力の向上を図るため、職員の接遇研修を実施した。

Ⅲ 収支計画にかかる評価

1 収益的収支

単位:百万円

区分	年度	29年度			
		プラン	実績	増減	増減率
経常収益 (A)		3,398	3,500	102	3%
医業収益		2,806	2,661	-145	-5%
入院収益		1,732	1,603	-129	-7%
外来収益		814	796	-18	-2%
その他医業収益		261	262	1	0%
医業外収益		592	812	220	37%
訪問看護事業収益		0	26	26	皆増
特別利益 (B)		1	0	-1	-100%
経常費用 (C)		3,466	3,422	-44	-1%
医業費用		3,358	3,288	-70	-2%
給与費		1,971	1,934	-37	-2%
材料費		521	545	24	5%
経費		693	651	-42	-6%
減価償却費		146	141	-5	-3%
その他医業費用		27	16	-11	-41%
医業外費用		108	96	-12	-11%
訪問看護事業費用		0	36	36	皆増
特別損失 (D)		3	1	-2	-67%
経常損益 (A-C)		-68	78	146	-215%
純損益 (A+B)-(C+D)		-70	77	147	-210%
累積欠損金		1,794	1,337	-457	-25%

2 資本的収支

単位:百万円

資本的収入	26	19	-7	-27%
企業債	0	0	0	-
出資金	26	18	-8	-31%
国庫補助金	0	1	1	皆増
その他	0	0	0	-
資本的支出	52	31	-21	-40%
建設改良費	45	25	-20	-44%
企業債償還金	7	6	-1	-14%
その他	0	0	0	-

3 一般会計繰出金(再掲)

単位:百万円

収益的収支	702	910	208	30%
資本的収支	26	18	-8	-31%
合 計	728	928	200	27%

取組状況と内部評価

昨年度に引き続き、収入の確保や費用の節減に努めた結果、一般会計繰入金の基準内による繰出しを加えて、77百万円の純利益を計上し、併せて累積欠損金の削減を図ることが出来た。

Ⅳ 運営評価委員会における評価

- 計画を上回る訪問診療・看護への積極的な取り組みを評価します。
- 救急車や他の医療機関からの積極的な受け入れにご尽力している点を評価します。
- 保健所主催の訓練への参加や地域への出前講座、関連機関への職員派遣など地域への積極的な取り組みを評価します。
- 平成27年度より患者数が減少し、病床利用率も減少傾向にあるので、地域における役割分担、連携体制などについて検討していただきたい。
- 医師数が減少しているので更なる医師確保について務めていただきたい。
- 医業損益・経常損益ともに悪化傾向なので、引き続き経営改善に取り組んでいただきたい。
- 地域包括ケア病棟の導入を進めていただきたい。

平成29年度 奥州市立病院・診療所改革プラン点検・評価調査

施設名	まごころ病院
-----	--------

I 数値目標にかかる評価

	平成29年度 目標(A)	平成29年度 実績(B)	増減比較 (B/A)	達成度	取組状況と内部評価
医師数(人)	9	10	111%	↑	医師数は、H28対比1名増となった。 入院患者数はH28対比1,974人の減、目標数値と比較して2,810人の減となった。 外来患者数については、概ね目標を達成することができた。
入院患者数(人)	14,600	11,790	81%	↓	
外来患者数(人)	54,189	52,721	97%	→	
平均在院日数(日)	20.0	16.8	84%	↑	訪問診療については、目標を上回る実績となった。
紹介率(%)	7.0	11.3	161%	↑	
救急車搬送患者数(人)	160	134	84%	↓	入院診療単価は、目標を下回ったもののH28対比1,482円の増となっている。
訪問診療件数(件)	1,400	1,422	102%	↑	
訪問看護件数(件)	1,830	1,411	77%	↓	給与費、材料費ともに目標金額を下回ったものの、医業収益が減収となったため職員給与比率や材料費比率が高まり、医業収支比率が落ち込んだ。
入院診療単価(円)	29,963	24,969	83%	↓	
外来診療単価(円)	7,775	7,485	96%	→	
病床利用率(%)	83.3	67.3	81%	↓	
医業収支比率(%)	80.0	68.9	86%	↓	
経常収支比率(%)	92.2	84.1	91%	→	
職員給与対医業収益比率(%)	80.0	87.8	110%	↓	
材料費対医業収益比率(%)	10.9	14.7	135%	↓	

【達成度1】※平均在院日数、職員給与対医業収益比率及び材料費対医業収益比率以外の数値目標にかかる達成度

↑	目標値と実績値を比較し、その達成率が100%以上の場合
→	目標値と実績値を比較し、その達成率が90%以上で100%未満の場合
↓	目標値と実績値を比較し、その達成率が90%未満の場合

【達成度2】※平均在院日数、職員給与対医業収益比率及び材料費対医業収益比率にかかる達成度

↑	目標値と実績値を比較し、その達成率が100%以下の場合
→	目標値と実績値を比較し、その達成率が100%を超え110%未満の場合
↓	目標値と実績値を比較し、その達成率が110%以上の場合

II 運営にかかる評価

プラン	取組状況と内部評価
地域医療構想を踏まえた役割の明確化 (プランP16～18)	医療施設が少ない地域の病院として、入院や外来医療に加え、在宅医療まで、住民ニーズに応じた医療の提供を行った。さらには、市立医療施設で唯一の「歯科口腔外科」を有し、一般歯科治療から病院歯科としての役割を果たした。 また、隣接する「健康増進プラザ悠悠館」「ぬくもりの家」とともに、胆沢地域における医療・健康・福祉・介護が連携する「達者の里構想」の拠点施設として重要な役割を果たした。具体的な取り組みとして、「達者の里連絡会」、「いさわ健康フェスティバル」「達者の里構成施設研究会」を継続して開催した。 このことなどにより、保健福祉医療の連携あるいは多職種協働がうまく機能し、金ヶ崎を含めた奥州管内で月100人を超える患者さんに在宅医療を提供して。また、まごころ病院周辺の15の各種高齢者施設の入所者に対しても、外来、入院あるいは訪問診療などで医療面のサポートをした。
再編・ネットワーク化 (プランP19～20)	医療連携室の設置により、県立胆沢病院等との連携強化につながっている。 市立医療施設間での医療スタッフの応援体制(派遣及び受入)により安定的な医療提供に努めた。
経営の効率化 (プランP21)	医師1名が着任し、医師及び歯科医師10名体制で診療を行ったが、入院患者数が目標を下回り、経営的に厳しい結果となった。 経営の効率化を進めるためには病床利用率の向上が大きなカギになっており、改善が必至となっている。

Ⅲ 収支計画にかかる評価

1 収益的収支

単位:百万円

区分	年度	29年度			
		プラン	実績	増減	増減率
経常収益 (A)		1,105	977	-128	-12%
医業収益		922	761	-161	-17%
入院収益		437	294	-143	-33%
外来収益		422	395	-27	-6%
その他医業収益		63	72	9	14%
医業外収益		183	209	26	14%
訪問看護事業収益		0	7	7	皆増
特別利益 (B)		0	1	1	皆増
経常費用 (C)		1,199	1,161	-38	-3%
医業費用		1,153	1,106	-47	-4%
給与費		738	716	-22	-3%
材料費		120	112	-8	-7%
経費		206	183	-23	-11%
減価償却費		84	86	2	2%
その他医業費用		5	8	3	60%
医業外費用		46	42	-4	-9%
訪問看護事業費用		0	13	13	皆増
特別損失 (D)		1	1	0	0%
経常損益 (A-C)		-94	-184	-90	96%
純損益 (A+B)-(C+D)		-95	-184	-89	94%
累積欠損金		273	338	65	24%

2 資本的収支

単位:百万円

資本的収入	53	59	6	11%
企業債	0	0	0	-
出資金	53	59	6	11%
国庫補助金	0	0	0	-
その他	0	0	0	-
資本的支出	88	97	9	10%
建設改良費	30	39	9	30%
企業債償還金	58	58	0	0%
その他	0	0	0	-

3 一般会計繰出金(再掲)

単位:百万円

収益的収支	207	227	20	10%
資本的収支	53	59	6	11%
合 計	260	286	26	10%

取組状況と内部評価	外来患者数は概ね目標を達成することができたが、入院患者数は目標に届かなかった。これにより入院収益がプラン目標に比べ大きく減額となった。 今後、地域包括ケア病床導入など、病院経営として収支バランスを考慮した対策が必要となっている。
-----------	--

Ⅳ 運営評価委員会における評価

- 達者の里構想の拠点施設として、地域医療に取り組んでいる点を評価します。
- 少ない医療スタッフの中で、夜間外来や在宅医療への取り組みなど、患者のニーズに応じた医療提供を実施している点を評価します。
- 歯科口腔外科に取り組まれている点を評価します。
- 医師数が比較的充足している中、患者数や病床利用率も減少傾向にあり、医業損益・経常損益ともに悪化傾向であることから、引き続き経営改善に取り組んでいただきたい。
- 保健所、県の事業に積極的に協力している点を評価します。

平成29年度 奥州市立病院・診療所改革プラン点検・評価調書

施設名	前沢診療所
-----	-------

I 数値目標にかかる評価

	平成29年度 目標(A)	平成29年度 実績(B)	増減比較 (B/A)	達成度	取組状況と内部評価
医師数(人)	1	1	100%	↑	平成26年度から休所となっていたが、平成27年度に設置した医療局が主体となって常勤医師確保策を精力的に進めた結果、平成28年度から常勤医師1名が着任し、同年5月9日から内科外来を再開した。平成29年度は、再開所後に1年を通じて患者を受け入れた最初の年度となった。 外来患者数が目標とは大きく乖離しているのは、プラン策定時に設定した目標が過大であったことによるものと分析している。 外来診療単価が目標に近づいたのは、検査や栄養指導、心理カウンセリングを積極的に推進した結果である。 訪問看護部門は年間を通じて運営を行ったものの、利用者の減少が続いている。
入院患者数(人)	0	0	-		
外来患者数(人)	17,171	6,096	36%	↓	
入院診療単価(円)	0	0.0	-		
外来診療単価(円)	6,066	5,491	91%	→	
病床利用率(%)	0.0	0.0	-		
訪問診療件数(件)	0	0.0	-		
訪問看護件数(件)	1,632	1,175	72%	↓	

【達成度】	
↑	目標値と実績値を比較し、その達成率が100%以上の場合
→	目標値と実績値を比較し、その達成率が90%以上で100%未満の場合
↓	目標値と実績値を比較し、その達成率が90%未満の場合

II 運営にかかる評価

プラン	取組状況と内部評価
地域医療構想を踏まえた役割の明確化 (プランP16～18)	前沢診療所は、前沢地域を中心にして地域における初期医療、慢性期医療を担う一次医療施設として位置づけられている。平成26年8月から医師不在による休止を余儀なくされてきたが、平成27年4月に設置した医療局が主体となって新たな常勤医師確保に努めた結果、平成28年度に常勤医師1名を所長として迎えることができた。平成29年度は、再開所後において年間を通じて患者を受け入れることができた最初の年度であったが、地域に密着した「かかりつけ医」として着実に住民に浸透してきており、十分に役割を果たしたと考えている。 また、訪問看護ステーションでは、前沢地域及び衣川地域を中心とした訪問看護を実施し、在宅医療機能を担った。
再編・ネットワーク化 (プランP19～20)	前沢診療所は、地域住民に対して安全・安心な医療を提供するため、再開所以降は総合水沢病院及びまごころ病院との間で医師の応援体制を確立している。また、安定した検査体制を構築するため、技師についても、まごころ病院及び衣川診療所との間で応援体制を図っている。 なお、平成28年度の再開所を機に、総合水沢病院と連携した医事システム、オーダーリングシステムを導入した。これにより、医療情報を共有することが可能になっている。
経営の効率化 (プランP21)	○安定的な医師及び医療スタッフの確保 平成26年度から休所となっていたが、常勤医師確保策を精力的に進めた結果、平成28年度から常勤医師1名が着任して内科外来の再開を果たすことができ、平成29年度もこれを維持した。看護師については、正職員から臨時的任用職員に切り替えることにより必要な人員を確保しつつ、経費節減を図った。 ○経費の節減 経費節減の面では、医療材料等を効率的に調達するために医療局が運用している「SPDシステム」を継続して運用することにより、目的に資することができた。また、業務委託契約や賃貸借契約については、医療局が医療局所管医療施設の契約を一括発注する方式に順次切り替えており、競争原理に基づく経費節減に効果が現れている。

Ⅲ 収支計画にかかる評価

1 収益的収支

単位:百万円

区分	年度	29年度			
		プラン	実績	増減	増減率
経常収益 (A)		271	215	-56	-21%
医業収益		135	51	-84	-62%
入院収益		0	0	0	-
外来収益		119	40	-79	-66%
その他医業収益		16	11	-5	-31%
医業外収益		136	152	16	12%
訪問看護事業収益		0	12	12	皆増
特別利益 (B)		0	7	7	皆増
経常費用 (C)		282	214	-68	-24%
医業費用		255	183	-72	-28%
給与費		124	88	-36	-29%
材料費		20	7	-13	-65%
経費		79	57	-22	-28%
減価償却費		30	30	0	0%
その他医業費用		2	1	-1	-50%
医業外費用		27	19	-8	-30%
訪問看護事業費用		0	12	12	皆増
特別損失 (D)		0	0	0	-
経常損益 (A-C)		-11	1	12	-109%
純損益 (A+B)-(C+D)		-11	8	19	-173%
累積欠損金		6	-29	-35	-583%

2 資本的収支

単位:百万円

資本的収入	36	48	12	33%
企業債	0	0	0	-
出資金	36	48	12	33%
国庫補助金	0	0	0	-
その他	0	0	0	-
資本的支出	54	77	23	43%
建設改良費	0	23	23	-
企業債償還金	54	54	0	0%
その他	0	0	0	-

3 一般会計繰出金(再掲)

単位:百万円

収益的収支	142	159	17	12%
資本的収支	36	48	12	33%
合 計	178	207	29	16%

取組状況と内部評価	医療局の方針として、平成29年度から、医業収益から訪問看護事業にかかる収益を、医業費用から訪問看護事業にかかる費用をそれぞれ分離して管理することとした。 経常収益については、再開した内科外来の収益が堅調に伸びたものの、プランの目標値が過大であったことから大きく下回った。一方、一般会計からの繰入金は減少することができた。 経常費用については、節減に努めたことから、目標値を下回った。 資本的支出では、平成29年度において施設維持のために必要な改修工事、医療関連機器の更新にかかる支出を行った。
-----------	--

Ⅳ 運営評価委員会における評価

- 常勤医師を確保して地域に密着した医療を提供している点を評価します。
- 訪問看護ステーションで広域にわたった訪問看護など、積極的に在宅医療機能を担っている点を評価します。
- 経費削減のための取り組みを実施している点を評価するが、引き続き経営改善に取り組んでいただきたい。

平成29年度 奥州市立病院・診療所改革プラン点検・評価調査書

施設名	衣川診療所
-----	-------

I 数値目標にかかる評価

	平成29年度 目標(A)	平成29年度 実績(B)	増減比較 (B/A)	達成度	取組状況と内部評価
医師数(人)	2	2	100%	↑	臨時の内科医1名を継続雇用し、医師2名体制を維持した。 高齢化、交通弱者のための患者輸送車を継続運行し、延べ7,264人の患者を輸送した。
入院患者数(人)	2,117	1,673	79%	↓	
外来患者数(人)	14,094	13,760	98%	→	
入院診療単価(円)	17,951	20,009	111%	↑	
外来診療単価(円)	12,216	11,087	91%	→	
病床利用率(%)	30.5	24.1	79%	↓	
訪問診療件数(件)	48	22	46%	↓	
訪問看護件数(件)	0	0	-	-	

【達成度】

↑	目標値と実績値を比較し、その達成率が100%以上の場合
→	目標値と実績値を比較し、その達成率が90%以上で100%未満の場合
↓	目標値と実績値を比較し、その達成率が90%未満の場合

II 運営にかかる評価

プラン	取組状況と内部評価
地域医療構想を踏まえた役割の明確化 (プランP16～18)	かかりつけ医的な機能を持つべき診療所として、患者の初期症状等を的確に把握して適切な指示や緊急に必要な処置を行う一次医療の役割を担っている。また、県立胆沢病院からの臨床研修医2名を受け入れ、地域医療研修に協力した。 機能分担により、急性期の患者は、救急指定医療機関である県立病院との連携により、受け入れをお願いした。
再編・ネットワーク化 (プランP19～20)	人員不足時には、市立病院からの内科医師や放射線技師の派遣応援をもらったほか、市立病院に臨床検査技師、理学療法士、作業療法士を派遣した。
経営の効率化 (プランP21)	前年度に引き続き医師2名体制(職員1、臨時1)で診療を行った。 事務局3名(職員1、臨時1、嘱託1)については、歯科診療所と兼務し経費節減を図っている。 また、医薬品、医療材料購入契約については医療局に一本化し、施設の維持管理についても可能な限り医療局に一本化したり、また簡易なものについては直営で修理し経費節減を図った。

Ⅲ 収支計画にかかる評価

1 収益的収支

単位:百万円

区分	年度	29年度			
		プラン	実績	増減	増減率
経常収益 (A)		381	359	-22	-6%
医業収益		229	208	-21	-9%
入院収益		38	33	-5	-13%
外来収益		172	153	-19	-11%
その他医業収益		19	22	3	16%
医業外収益		152	151	-1	-1%
訪問看護事業収益		0	0	0	-
特別利益 (B)		0	0	0	-
経常費用 (C)		379	363	-16	-4%
医業費用		363	350	-13	-4%
給与費		205	203	-2	-1%
材料費		83	68	-15	-18%
経費		47	48	1	2%
減価償却費		27	30	3	11%
その他医業費用		1	1	0	0%
医業外費用		16	13	-3	-19%
訪問看護事業費用		0	0	0	-
特別損失 (D)		0	1	1	-
経常損益 (A-C)		2	-4	-6	-300%
純損益 (A+B)-(C+D)		2	-5	-7	-350%
累積欠損金		2	0	-2	-100%

2 資本的収支

単位:百万円

資本的収入	20	16	-4	-20%
企業債	2	0	-2	-100%
出資金	17	16	-1	-6%
国庫補助金	1	0	-1	-100%
その他	0	0	0	-
資本的支出	31	27	-4	-13%
建設改良費	2	1	-1	-50%
企業債償還金	29	26	-3	-10%
その他	0	0	0	-

3 一般会計繰出金(再掲)

単位:百万円

収益的収支	123	116	-7	-6%
資本的収支	17	16	-1	-6%
合 計	140	132	-8	-6%

取組状況と内部評価

収益的収支については、プランに掲げた患者数を下回り収入目標を達成することができず、経常損益として4百万の赤字となった。
資本的収支については、今後、施設の老朽化にともない建設改良費の増加が見られるので、計画的な修繕・改修が必要となる。

Ⅳ 運営評価委員会における評価

- 医療資源が乏しい衣川地区において地域医療を提供されている点を評価します。
- 患者の利便性に配慮した取り組みを評価します。
- 研修医の受け入れ等、地域医療に貢献している点を評価します。
- 経費削減のための取り組みを実施している点を評価するが、引き続き経営改善に取り組んでいただきたい。
- 常勤医師が高齢であり、入院医療の維持にかかる議論を進めていただきたい。

平成29年度 奥州市立病院・診療所改革プラン点検・評価調書

施設名	衣川歯科診療所
-----	---------

I 数値目標にかかる評価

	平成29年度 目標(A)	平成29年度 実績(B)	増減比較 (B/A)	達成度	取組状況と内部評価
医師数(人)	1.4	1.4	100%	↑	歯科予防活動としてPMTC、障害者等への摂食嚥下治療の継続、老人ホーム職員への口腔ケア指導に取り組み等、歯科予防に積極的に取り組んだ。
入院患者数(人)	0	0	-		
外来患者数(人)	8,160	6,713	82%	↓	
入院診療単価(円)	0	0	-		
外来診療単価(円)	7,555	7,760	103%	↑	
病床利用率(%)	0.0	0.0	-		
訪問診療件数(件)	12	20	167%	↑	
訪問看護件数(件)	0	0	-		

【達成度】

↑	目標値と実績値を比較し、その達成率が100%以上の場合
→	目標値と実績値を比較し、その達成率が90%以上で100%未満の場合
↓	目標値と実績値を比較し、その達成率が90%未満の場合

II 運営にかかる評価

プラン	取組状況と内部評価
地域医療構想を踏まえた役割の明確化 (プランP16～18)	成人歯科健診など住民の予防活動から、幼児の歯科指導や児童生徒の歯磨き指導、虫歯予防運動を地域や学校等と連携して推進した。 岩手医科大学歯学部から臨床研修医6名、地域医療体験実習生2名を受け入れ、地域医療研修に協力した。
再編・ネットワーク化 (プランP19～20)	奥州市歯科医師会・胆沢病院等連携した医師によるNST回診、歯科技工物製作の連携による体制の安定化を図った。
経営の効率化 (プランP21)	歯科医師1名のほか前所長に週2回の応援体制で診療を行い、患者の受け入れに努めた。 事務3名(職員1、臨時2、嘱託1)の医科診療所との兼務により人件費の節減を図っている。 なお、医薬品購入契約については医療局に一本化し、施設の維持管理についても可能な限り医療局に一本化し節減を図った。

Ⅲ 収支計画にかかる評価

1 収益的収支

単位:百万円

区分	年度	29年度			
		プラン	実績	増減	増減率
経常収益 (A)		103	99	-4	-4%
医業収益		71	58	-13	-18%
入院収益		0	0	0	-
外来収益		62	49	-13	-21%
その他医業収益		9	9	0	0%
医業外収益		32	41	9	28%
訪問看護事業収益		0	0	0	-
特別利益 (B)		0	0	0	-
経常費用 (C)		95	96	1	1%
医業費用		92	93	1	1%
給与費		70	72	2	3%
材料費		7	7	0	0%
経費		8	8	0	0%
減価償却費		6	5	-1	-17%
その他医業費用		1	1	0	0%
医業外費用		3	3	0	0%
訪問看護事業費用		0	0	0	-
特別損失 (D)		0	0	0	-
経常損益 (A-C)		8	3	-5	-63%
純損益 (A+B)-(C+D)		8	3	-5	-63%
累積欠損金		0	0	0	-

2 資本的収支

単位:百万円

資本的収入	6	7	1	17%
企業債	1	3	2	200%
出資金	4	4	0	0%
国庫補助金	1	0	-1	-100%
その他	0	0	0	-
資本的支出	10	11	1	10%
建設改良費	2	5	3	150%
企業債償還金	8	6	-2	-25%
その他	0	0	0	-

3 一般会計繰出金(再掲)

単位:百万円

収益的収支	31	31	0	0%
資本的収支	4	4	0	0%
合 計	35	35	0	0%

取組状況と内部評価	退職した前所長から週2回のサポートをいただき、診療体制の充実を図ったが、外来患者は6,713人で前年度と比較して290人の減となり、収入目標を達成できなかった。費用については経費の節減等に努め、プラン目標には届かなかったが経常損益で3百万円の黒字となった。
-----------	--

Ⅳ 運営評価委員会における評価

- 医療資源が乏しい衣川地区において地域医療を提供されている点を評価します。
- 地域における歯科予防活動への積極的な取り組みを評価します。
- 研修医、学生の受け入れ等、地域医療に貢献している点を評価します。
- 経費削減のための取り組みを実施し、黒字を計上できたことを評価します。